

生誕450年

伊達政宗の生涯をたずねて 第4回

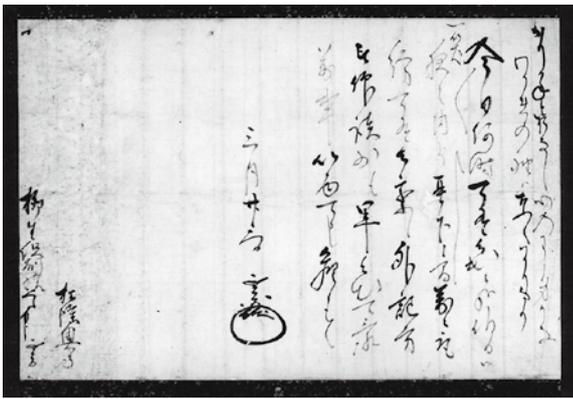
仙台市博物館 学芸企画室 明石治郎



書状の数量

約三九〇〇通。現在のところ、実物が遺存していたり、文面が筆写されて残っている政宗書状の総数です。そして、その半数以上の一九〇〇通近くは実物（原本）が残っています。さらに、そのうちの一三〇〇通以上、約七〇パーセントが自筆です。

いずれの数もたいへん多いといわれていますが、戦国末期から江戸初期にかけて五〇年以上大名の座にあった政宗です。実際に差し出した書状の総数はどれほどだったのでしょうか。



柳生宗矩に宛てた伊達政宗の自筆書状(仙台市博物館所蔵)

江戸幕府初期の外交・宗教政策に関わった禅僧金地院崇伝の『本光国師日記』からは、

政宗が崇伝に宛てた書状が少なくとも三一通あったことが知られます。そのうち、実物が現存するのは一通のみです。崇伝宛書状の現存物は、右の一通のほかにも三通（計四通）が確認されますから、記録にも残らなかった崇伝宛書状が多数あったことと推測されます。

また、政宗書状のなかには、案文（下書き、あるいは控え）が記録され、文面が書き残されたものもあり、その数は、約一一〇〇通です。これら案文は、政宗を敬して「御案文」と呼ばれています。そのうち、書状の実物の現存が知られるのは八通のみです。残存率はわずかに〇・七パーセント程度です。

もちろんこれらの数値から実際の数量が導き出せるわけではありません。しかし、政宗書状の総数が、とても千の単位でおさまるものではないことを示唆するものといえそうです。

自筆書状と右筆書状

さて、大名の書状は右筆（書記役）が筆を執ることが普通であった当時において、政宗の自筆の多さは際立っており、大きな特徴をなしています。これは、政宗が相手との信頼関係を築くのに、自筆こそ最高の礼と考え、特に親しい相手には自筆の書状にこだわったからだといわれています。

しかし、自筆書状と右筆による書状の数量比率が七対三というのは、もともとそうであったと考えてよいのでしょうか。自筆書状は大事にされたため、残りやすかったということがあるかもしれません。

政宗晩年の寛永九年（一六三二）のことですが、江戸を訪れていた公家の土御門泰重が饗応を受けていた自宅に、政宗からの書状が届きました。それを見た主人が、政宗の自筆だからと所望したので、泰重は与えてやったといいます。政宗の生前すでに、その自筆が収集の対象になっていたことをうかがわせる話です。

また、先に触れた「御案文」は、現存する八通の書状や文面などから、右筆による書状の案文だと考えられるのですが、自筆書状が多く残る宛先の人物は「御案文」にも多いという傾向があります。たとえば、兵法家として著名な柳生宗矩宛は、自筆二七通、右筆四通が現存し、「御案文」には二九通見えます。四通の右筆書状と「御案文」は一通も重なりません。今では知られない宗矩宛の右筆書状が多数あったと想像されます。「御案文」書状において、実物の残存率がきわめて低いことは、すでに見たとおりです。

政宗は、礼式上など状況に応じて自筆と右筆を使い分けていて、右筆書状を自筆書状現存数での対比から考えられるよりは、ずっと多く差し出していたのではないのでしょうか。

自筆書状は、そこに政宗の人格が感じられる趣があり、書跡としての価値も相まって、より選択的に残される機会に恵まれるところもあったのではないかと思うのです。

※本稿では仙台市博物館の学術研究機関たる立場から歴史上の人物名に敬称を付していません。

企画展

伊達な優品 勢ぞろい Part II

—この10年の新収蔵品—

4月21日(金)~6月4日(日)

※期間中、展示替えを行います。 前期:4月21日(金)~5月14日(日)、後期:5月16日(火)~6月4日(日)

2007年以降に収蔵した絵画や書状、甲冑、陶磁器などバラエティに富んだ仙台市博物館の新たな優品の数々を紹介いたします。

観覧料:常設料金でご覧いただけます。
一般・大学生:460円(360円)
高校生:230円(180円)
小・中学生:110円(90円)

※()内は30名以上の団体料金
◇休館日:5月1日をのぞく毎週月曜日
◇開館時間:9時~16時45分 (入館~16時15分)

[左]仙台錦分名所手籠のうち「山福岡」伊達宗村書・狩野典信筆(前期展示)、[右]白糸威二枚胴具足(通期展示) いずれも仙台市博物館蔵



仙台市博物館 SENDAI CITY MUSEUM TEL:022-225-3074 仙台市博物館 検索